

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	4	必要時間数	80
担当教員	下宮 啓佑		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	<p>あま指の施術を行う上で、各疾患の現代医学的な成因、病態、症候、診断および治療について理解する。</p> <p>また、本授業の履修により、臨床現場におけるあま指施術の適否・各疾患の鑑別の説明、治療の方針の検討を行うことを目的とする。</p>		
教科書	東洋療法学校協会編、臨床医学各論 第2版、医歯薬出版株式会社		

具体的な到達目標	
目標 1	第9章循環器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 2	第10章血液・造血器疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 3	第11章神経疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 4	第12章膠原病・リウマチ性疾患に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 5	第13章その他の領域に関する成因、病態、症候、診断および治療について説明することができる。
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		オリエンテーション、シラバスについて、心不全について①	
2		心不全について②	
3		心臓弁膜疾患について	
4		不整脈、その他の代表的な先天性疾患について	
5		冠動脈疾患（狭心症、心筋梗塞）について	
6		動脈疾患（動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離など）について	
7		血圧異常（高血圧・低血圧）について	
8		心筋・心膜疾患（特発性心筋症、心筋炎、心膜炎、心タンポナーデ）について	
9		第9章循環器疾患まとめ	
10		赤血球疾患（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、再生不良性貧血）について	
11		白血球疾患（白血病、多発性骨髄腫）について	
12		リンパ網内系疾患（悪性リンパ腫）について	
13		出血性素因（紫斑病・血友病など）について	
14		第10章血液・造血器疾患まとめ	
15		リウマチ性疾患（関節リウマチ）について	
16		膠原病（SLE、全身性硬化症、ベーチェット病など）について	
17		その他の膠原病について	
18		第12章リウマチ性疾患・膠原病まとめ	
19		第9章、第10章、第12章まとめ	
20		脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）について①	
21		脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）について②	
22		感染性疾患（髄膜炎など）、脳・脊髄腫瘍について	
23		基底核変性疾患（パーキンソン病、ハンチントン病など）、その他の変性疾患について	
24		認知症性疾患について	
25		筋疾患（重症筋無力症、筋ジストロフィーなど）、運動ニューロン疾患について	
26		末梢神経性疾患（ギランバレー症候群など）について	
27		神経痛（三叉神経痛など）について	
28		機能的疾患（緊張型頭痛など）について	
29		てんかんについて	
30		第11章神経疾患まとめ	
31		小児科疾患（小児神経症、小児夜尿症など）について	
32		一般外科（損傷概論、ショックなど）について	
33		麻酔科（全身・局所麻酔）について	
34		婦人科疾患（子宮頸癌、更年期障害など）、皮膚科疾患（じんま疹など）について	

35	眼科疾患（結膜炎、角膜炎など）
36	耳鼻科疾患（メニエール病、中耳炎など）について
37	精神科疾患（統合失調症、うつ病など）について
38	心療内科（心身症など）について
39	第 13 章その他の疾患まとめ
40	第 9 章～第 13 章まとめ

その他の事項

担当教員アドレス : shimomiya@butsugen.or.jp

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	黒木 裕士				
授業形態	講義（動画＋対面）	教 室	ホームルーム		
授業目的	リハビリテーション医学の全体を理解する。具体的には、リハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等について学習し、各種疾患等の個別リハビリテーション対応を説明できることを授業目的とする。				
教科書	①東洋療法学校協会編、新版リハビリテーション医学、文光堂 ②上田敏著、目でみるリハビリテーション医学、第2版、東京大学出版会				

具体的な到達目標	
目標1	リハビリテーション医学の理念・目的・語源・歴史について説明できる。
目標2	生活機能分類・リハビリテーションの分野について説明できる。
目標3	リハビリテーション医療とチーム、地域リハビリテーションについて説明できる。
目標4	リハビリテーションにおける診断・評価について説明できる。
目標5	リハビリテーション治療学について説明できる。
目標6	整形外科疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標7	神経疾患のリハビリテーションについて説明できる。
目標8	内部障害とがんのリハビリテーションについて説明できる。
目標9	高齢者に多くみられる疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。
目標10	小児疾患のリハビリテーションについて説明できる。

評価と試験				
	前 期		後 期	
試験成績	100%		100%	
平常点	0%	算出方法	0%	算出方法
出席点	0%	算出方法	0%	算出方法
その他	0%	算出方法	0%	算出方法
試験日	後日伝達		後日伝達	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	理学療法士としての実務経験
実務経験をいかした教育内容	リハビリテーションにおける臨床経験を有する教員が、その経験を生かしてリハビリテーション医学の歴史と現状、対象疾患、治療手段・方法等および各種疾患等の個別リハビリテーション対応について講義する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	[動画]4/8	リハビリテーション医学・医療①理念・目的、語源・歴史	教科書①2-7頁、②2頁
2	[動画]4/15	リハビリテーション医学・医療②生活機能分類	教科書①7-12、②3-4
3	[対面]4/23	リハビリテーション医学・医療③リハビリテーションの分野	教科書①12-13、②6
4	[動画]4/29	リハビリテーション医学・医療④リハビリテーション医療	教科書①13-16
5	[動画]5/6	リハビリテーション医学・医療⑤リハビリテーションチーム、地域リハビリテーション	教科書①16-24、②7
6	[動画]5/13	診断・評価学①診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ	教科書①81-92、②9、16
7	[対面]5/21	診断・評価学②検査・測定	教科書①92-139、②16、 42-43、44-45
8	[動画]5/27	治療学①運動療法	教科書①140-149、② 34-35、62-63
9	[動画]6/3	治療学②物理療法	教科書①149-151
10	[動画]6/10	治療学③作業療法、言語聴覚療法	教科書①151-160、② 22-23、50-53、77
11	[対面]6/25	治療学④補装具、自助具・福祉用具	教科書①、②64-67
12	[動画]7/1	脳卒中のリハビリテーション概要	教科書②80-85
13	[動画]7/8	脊髄損傷のリハビリテーション概要	教科書②76-89
14	[対面]7/16	二分脊椎、脳性麻痺、デュシェンヌ筋ジストロフィー、切断者のリハビリテーション概要	教科書②48-49、91-103
15	[対面]7/30	関節リウマチ、疼痛性疾患、呼吸器・循環器疾患、癌のリハビリテーション概要	教科書②104-109
16	[動画]8/26	整形外科疾患①運動器疾患-上肢、下肢	教科書①182-216
17	[動画]9/2	整形外科疾患②運動器疾患-脊椎、脊髄損傷	教科書①216-235
18	[対面]9/10	整形外科疾患③脊髄損傷、切断	教科書①227-241
19	[動画]9/16	整形外科疾患④関節リウマチ・スポーツ傷害	教科書①241-249
20	[動画]9/23	神経疾患①脳血管障害-基礎知識	教科書①250-259
21	[動画]9/30	神経疾患②脳血管障害-リハビリテーション治療の要点	教科書①260-272
22	[対面]10/8	神経疾患③パーキンソン病	教科書①272-278
23	[動画]10/14	神経疾患④脊髄小脳変性症・多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、末梢神経障害、ポリオ	教科書①278-291
24	[動画]10/21	内部障害①虚血性疾患	教科書①292-298
25	[動画]10/28	内部障害②呼吸器疾患	教科書①299-304
26	[対面]11/5	内部障害③糖尿病	教科書①304-317
27	[動画]11/11	がん、高齢者に多くみられる疾患①骨粗鬆症・廃用症候群	教科書①318-347
28	[動画]11/18	高齢者に多くみられる疾患②認知症	教科書①347-352
29	[対面]11/26	小児疾患①脳性麻痺	教科書①353-358
30	[対面]12/17	小児疾患②筋ジストロフィー症・二分脊椎	教科書①358-361

その他の事項

教科書だけでなく、動画等を用いることがあります。対面授業の冒頭では、それまでの授業回での不明点等について質問時間を設けます。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	松 尾				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	<p>安心・安全な医療を提供・享受する上で「法」は必要不可欠な学問のひとつです。</p> <p>この授業ではあはき法及び他の医事・社会福祉・社会保険・衛生法規の基礎を学び、それらの法規の関係性及び制定の主旨を理解することを目的とします。</p> <p>「法」というと非常に堅苦しい印象を受けますが、みなさんの身近な例、これから相対するであろう事象を取り上げながら、この授業で学ぶ「法」に親しみを感じていただければと思います。</p>				
教科書	関係法規 第7版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社				

具体的な到達目標	
目標1	あはき法制定の目的について説明することができる。
目標2	あはき法における免許・名簿に関する事項について説明することができる。
目標3	あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の業務範囲について説明することができる。
目標4	施術所の要件や広告の制限について説明することができる。
目標5	あはき法に纏わる罰則について説明することができる。
目標6	各種医事法規・薬事法規について、その概要を説明することができる。
目標7	各種衛生関係法規・社会福祉関係法規・社会保険関係法規について、その概要を説明することができる。

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%		
平常点	算出方法	算出方法	算出方法
出席点	算出方法	算出方法	算出方法
その他	算出方法	算出方法	算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		あはき法①（法定の目的、免許と試験①[免許制度の意義、免許の資格要件]）	
2		あはき法②（免許と試験②[免許に関する事務、施術者の身分]）	
3		あはき法③（業務①[業務の範囲、施術に関する注意]）	
4		あはき法④（業務②[施術所に関する規則、広告の制限]）	
5		あはき法⑤（業務③[医業類似行為]、学校・養成施設）	
6		あはき法⑥（罰則、その他）	
7		あはき法⑦（あはき法まとめ）	
8		関係法規①（医療法）	
9		関係法規②（各種医療従事者の根拠法）	
10		関係法規③（薬事法規）	
11		関係法規④（衛生関係法規）	
12		関係法規⑤（社会福祉関係法規①）	
13		関係法規⑥（社会福祉関係法規②、社会保険生関係法規①）	
14		関係法規⑦（社会保険生関係法規②）	
15		その他の関係法規	

その他の事項

特に前半部の「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律」の内容は将来開業をする際に必要となる知識ですので、国家試験のみならず、卒業後のことも見据えて学んでください。

質問等があれば教員室または下記アドレスへお願いします。

担当者アドレス : s.matsuo@butsugen.or.jp

授業概要					
学科	選科	学年	3年	学期	通年
単位数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	上田恵介				
授業形態	講義	教室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論Ⅰは、治療各論を中心に臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教科書	教科書執筆小委員会、新版 東洋医学臨床論（はりきゆう編）、南江堂、2022年 教科書検討小委員会著、新版 東洋医学概論、医道の日本社、2015年 奈良信雄ら、臨床医学各論 第2版、17刷 医歯薬出版社、1991年				

具体的な到達目標	
目標1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標3	疾患、症候に対するあま指の手技を説明できる。
目標4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標7	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。

評価と試験					
前期			後期		
試験成績	80点		80点		
平常点	0点	算出方法	0点	算出方法	
出席点	0点	算出方法	0点	算出方法	
その他	20点	算出方法	小テスト	20点	算出方法 小テスト
試験日	後日伝達		後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	
実務経験をいかした教育内容	

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		授業概要シラバス説明・東洋医学のおさらい	
2		第2章各論 第1節 I 概説・II 頭痛	

3	第2章各論 第1節 III顔面痛 第2節 2-3 脾系統 VII歯痛	
4	第2章各論 第1節 IV関節痛・V頸腕痛	
5	第2章各論 第1節 VI上肢痛	
6	第2章各論 第1節 VII肩関節痛	小テスト
7	第2章各論 第1節 VIII腰下肢痛・IX腰痛	
8	第2章各論 第1節 X下肢痛	
9	第2章各論 第1節 XI膝痛	
10	第2章各論 第2節 2-1 肝系統 I 眼精疲労	
11	第2章各論 第2節 2-1 肝系統 II 気分障害（うつ状態）	小テスト
12	第2章各論 第2節 2-1 肝系統 IIIめまい 2-5 腎系統 II 耳鳴り・難聴	
13	第2章各論 第4節 その他 I 顔面麻痺	
14	第2章各論 第2節 2-5 腎系統 I 脱毛症	
15	前期 まとめ	
16	総合	
17	第2章各論 第1節疼痛 X II胸痛	
18	第2章各論 第1節疼痛 X III腹痛	
19	第2章各論 第2節 2-3 脾系統 IV悪心・嘔吐	
20	第2章各論 第2節 2-3 脾系統 V便秘、VI下痢	
21	第2章各論 第2節 2-4 肺系統 I 咳嗽と喀痰	小テスト
22	第2章各論 第2節 2-4 肺系統 II呼吸困難、III鼻閉・鼻汁	
23	第2章各論 第5節 I 概説、II月経異常	
24	第2章各論 第5節 III性器出血、IV帯下	
25	第2章各論 第5節 V不妊症、VIつわり	
26	第2章各論 第5節 VII骨盤位、VIII乳汁分泌不全	小テスト
27	総合問題演習 第1・2節	
28	総合問題演習 第5節	
29	後期まとめ	
30	総合	

その他の事項

授業の概要

毎時間教科書及び配布資料を用いた講義。

受講するうえでの決まり事

配布資料：配布資料は、教科書と同様、毎時間持参すること。

その他：著しく授業を妨害する行為、または教員の指示に従わないと判断した際、退室を命じる場合があります。

成績評価

試験点数80点 小テスト20点

担当教員からメッセージ

「東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目になります。両方の視点をもって診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、総論、リハビリテーション、経絡経穴概論、東洋医学概論などの教科に関連する科目ですので、都度、復習等を推奨しています。」

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム		
授業目的	東洋医学臨床論は、治療各論を重点に展開する。臨床現場で遭遇する症候や疾患に対して、西洋・東洋医学の両面から診断、治療の適否について学習する。				
教科書	新版 東洋医学臨床論<はりきゆう編> 南江堂 新版 東洋医学概論 医道の日本社 東洋医学臨床論<あま指編> 医道の日本社 臨床医学各論 医歯薬出版社 など				

具体的な到達目標	
目標1	症候の禁忌、適応の判断ができる。
目標2	疾患、症候を東洋医学的、現代医学的の両面から病態把握ができる。
目標3	疾患、症候に対するあま指の施術を説明できる。
目標4	疾患、症候固有の症状、反応などを説明できる。
目標5	疾患、症候に対する治療経穴の部位、支配神経、支配筋などが説明できる。
目標6	腹診、脈診、痛みの分類から病態を判断ができる。
目標7	国家試験問題を解き、解答に対する説明ができる。
目標8	加齢に伴う病態について、説明できる。
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	100%	100%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	算出方法	算出方法	
その他	算出方法	算出方法	
試験日	後日伝達	後日伝達	

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床現場での経験、必要な事項についても教授しながら、また国家試験における出題傾向も交えて授業を展開する。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		第2章各論 第2節 2-2 心系統 I 動悸・息切れ	シラバス説明含む
2		第2章各論 第2節 2-2 心系統 II 血圧異常	
3		第2章各論 第2節 2-2 心系統 III 睡眠障害	
4		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 I 食欲不振	
5		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 II 肥満	
6		第2章各論 第2節 2-3 脾系統 III やせ(るい瘦)	
7		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害①	
8		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 III 排尿障害②	
9		第2章各論 第2節 2-5 腎系統 IV ED(勃起障害)	
10		第2章各論 第3節 I 疲労と倦怠	
11		第2章各論 第3節 II 発熱	
12		第2章各論 第3節 III 冷え IV のぼせ	
13		第2章各論 第3節 V 浮腫	
14		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第2節	
15		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第3節	
16		第2章各論 第3節 VI 掻痒感・肌荒れ・発疹	
17		第2章各論 第4節 その他の症候 II 歩行異常	
18		第2章各論 第4節 その他の症候 III 口渴	
19		第2章各論 第4節 その他の症候 IV 出血傾向	
20		第2章各論 第6節 小児特有の症候①	
21		第2章各論 第6節 小児特有の症候②	
22		第2章各論 第7節 老年特有の症候①	
23		第2章各論 第7節 老年特有の症候②	
24		(臨各)加齢に伴う病態 a. フレイル b. サルコペニア、c. ロコモ	
25		(臨各)加齢に伴う病態 d. 治療 まとめ	
26		各種の検査・指標、運動療法の病態と治療など(ストレッチング)	
27		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第3節・第4節	
28		東洋医学臨床論総合 まとめ・問題演習 第6節・第7節	
29		東洋医学臨床論総合 症例を用いた問題演習 第2節・第3節	
30		東洋医学臨床論総合 症例を用いた問題演習 第4～7節	

その他の事項

<授業の概要> 教科書および配布資料を用い、授業を行います。
 <教員から> 東洋医学臨床論は東西の異なる医学で学んできた内容を総合した科目です。両方の視点をもち、診察から病態把握、施術が出来ることを目標とします。臨床医学各論、臨床医学総論、リハビリテーション概論、経絡経穴概論、東洋医学概論なども都度、復習のこと。
 <連絡先> usui@butsugen.or.jp

授業概要			
学 科	選 科	学 年	3 年
単 位 数	1	必要時間数	20
担当教員	川口 隼子		
授業形態	講 義	教 室	ホームルーム
授業目的	現代医療や福祉の環境が変化の中で、あま指師の必要性は必須とされている。あま指の理論と基本的な技術を正確に学習し、現代社会に踏み出したときに、患者に対して適応する施術ができて不利益を与えず、尊敬され慕われる医療人となるために学習する。		
教科書	公益社団法人 東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧理論 第3版 医道の日本社 2016年		

具体的な到達目標	
目標1	あま指の発祥地、特徴について説明できる。
目標2	あま指の手技の相違点について説明できる。
目標3	あま指の作用、治療効果について説明できる。
目標4	古法あん摩の手技を現代の手技に置き換えて説明できる。
目標5	生体に対する機転について（体性神経、自律神経に対する作用）説明できる。
目標6	あま指理論の学説に対して説明できる。
目標7	物理療法の特徴について説明できる。
目標8	あま指の適応と禁忌について説明できる。
目標9	運動法の種類、特徴を判別できる。
目標10	あま指が西洋医学にどのように応用されているかを説明できる。（看護、乳房、結組織マッサージ）

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	90%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	10%	1回欠席ごとに2点、遅刻早退は3回で2点の減点。	算出方法
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の実務経験	鍼灸あん摩マッサージ指圧師の免許を有し、治療院を開業する。

実務経験をいかした教育内容

理論の手技を実際の施術に応用して対処できること。
ヒヤリハットなどの対応について。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	[動画]4/8	あま指の沿革、相違点、組織器官に及ぼす作用について（一年次の復習）	
2	[動画]4/15	あま指と併用する運動法、あま指の治療効果について（一年次の復習）	
3	[対面]4/27	東洋医学とあま指の拘り方について	
4	[動画]5/6	古法あん摩について（あん摩手引き）	
5	[動画]5/13	古法あん摩について（腹診）	
6	[動画]5/20	古法あん摩について（口訣導引鈔）	
7	[対面]6/1	古法あん摩について（按腹図解）	
8	[動画]6/3	あま指の応用について（医療、看護、産業、乳房、保健、スポーツ、結合織）	
9	[対面]6/15	物理療法の一般（電気、光線、温熱、寒冷、水治、温泉）の作用と禁忌について。	
10	[対面]6/29	あま指の適応と禁忌について、全体の復習	

その他の事項

教科書がメインとなるので線引きや重要ポイントの記入を忘れないこと。体調管理は自己責任なので仕事優先で休まないこと。
対面授業では動画撮影の復習として練習問題を出題していきます。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	2	必要時間数	60	実施時間数	60
担当教員	松浦英世				
授業形態	実 習	教 室	実施教室を選択		
授業目的	これまでに習った基礎医学やあん摩・マッサージ・指圧基本術式を応用し、各疾病を学び臨床に応用した治療法を学習する。 卒業後の開業した際に症状に合った治療法を学習する。				
教科書	スポーツマッサージ、テキスト配布				

具体的な到達目標	
目標 1	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。
目標 2	体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる
目標 3	内科疾患に対する手技療法をすることができる。
目標 4	臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。
目標 5	卒業後に向けてあま指の総合的な治療法を理解し開業に対する考え方ができるようになる
目標 6	
目標 7	
目標 8	
目標 9	
目標 10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	70%	70%	
平常点	算出方法	算出方法	
出席点	30% 算出方法 欠席2点、遅刻1点減点	30% 算出方法 欠席2点、遅刻1点減点	
その他	算出方法	算出方法	
試験日			

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	鍼師・灸師・按摩マッサージ指圧師の免許を有する。鍼灸治療院にて40数年の臨床経験あり。
実務経験をいかした教育内容	臨床の現場において遭遇するあらゆる主訴に対する基本的な治療の方法を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		大腿部前面⑳ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。	
2		大腿部後面㉑ 大腿部の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。伸展法含む。	
3		鼠径部股関節㉒ 股関節の障害について説明。治療穴に対するマッサージ実技。牽引性運動法含む。	
4		治療の概要および太極療法	
5		胃疾患① 肋骨弓角の診方と食道・胃疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
6		肝胆膵② 十二指腸周囲の疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
7		大小腸③ 大小腸疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
8		大小腸③ 虫垂炎・痔疾の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
9		泌尿器疾患④ 腎・膀胱疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
10		婦人科疾患⑤ 月経と更年期疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
11		反射穴に対する手技療法	
12		伸展法実技（下肢編）	
13		前期実技試験	
14		背俞穴に対する全身編スポーツマッサージ実技（B 腰殿部・C 下肢後面）	
15		呼吸器⑥ 風邪と気管支疾患の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
16		心臓⑦ 不整脈と動悸の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
17		頸肩背部（背俞穴）の全身編スポーツマッサージ実技（A 頸肩背部）	
18		頭痛⑧ 頭部の診方と症状部位の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
19		神経症⑨ 頭部の触診と症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
20		眼科疾患⑩ 症状の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
21		耳疾患⑪ 耳鳴り・難聴・めまいの局所穴と遠位穴に対する手技療法	
22		鼻疾患⑫ アレルギー鼻炎や嗅覚異常の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
23		顔面部⑬ 顎関節症・歯痛の局所穴と遠位穴に対する手技療法	
24		伸展法実技（上肢編）	
25		後期実技試験	
26		美顔マッサージ実技 美顔の局所穴と遠位穴に対するマッサージ実技	
27		乳房マッサージ実技 乳房に対する局所穴・遠位穴・反射穴のマッサージ実技	
28		頭髪際刺針法 理論と実技	
29		耳鍼法 理論と実技	
30		診療白書 診察から治療まで	

その他の事項

各疾患に対し、資料に基づいて実技を学び、その後学生同士ペアとなり実技を行う。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	臼井 明宏				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	これまでに習った医学的知識やマッサージの手技を応用し、オイルマッサージにて、腰痛、膝痛などの症候に対する施術を学習する。				
教科書	東洋療法学校協会編 あん摩マッサージ指圧実技〈基礎編〉 医道の日本社				

具体的な到達目標	
目標1	下肢前面・後面の体表観察、触診を行うことができる。
目標2	下肢前面・後面へのオイルマッサージを行うことができる。
目標3	背部へのオイルマッサージを行うことができる。
目標4	下肢、腰部などの検査・評価等を行うことができる。
目標5	
目標6	
目標7	
目標8	
目標9	
目標10	

評価と試験			
前 期		後 期	
試験成績	80%		
平常点	20%	算出方法 課題など	算出方法
出席点		算出方法	算出方法
その他		算出方法	算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。
実務経験をいかした教育内容	実際の症例を参考に、評価等を含め、教授を行う。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1		下腿後面へのマッサージ(基本手技の確認：軽擦、圧迫、揉捏、鋸切揉捏、叩打法) オイルのパッチテスト	タルク使用
2		下肢後面へのマッサージ ① 足底 評価…足関節、足趾	以下、オイル使用
3		下肢後面へのマッサージ ② 下腿 評価…足関節、足趾	
4		下肢後面へのマッサージ ③ 足底・下腿・大腿 ※強擦法のレクチャー	
5		下肢後面へのマッサージ ④ 大腿・叩打法 評価…FFD、SLR等	
6		下肢前面へのマッサージ ① 足背・下腿前面 評価…足関節、足趾	
7		下肢前面へのマッサージ ② 下腿前面・外側 評価…腸脛靭帯炎など	
8		下肢前面へのマッサージ ③ 足背～叩打法・運動法 ※強擦法のレクチャー	
9		腰背部へのマッサージ ① 全体の軽擦、半身への軽擦、揉捏など	
10		腰背部へのマッサージ ② 全体の軽擦～肩甲骨周囲、頸部	
11		腰背部へのマッサージ ③ 全体の軽擦～しあげ	
12		腰背部へのマッサージ ④ 全体の軽擦～しあげ 評価：頸部、腰部など	
13		腰背部へのマッサージ ⑤ 全体の軽擦～しあげ (時間計測し、時間内施術)	
14		期末試験	
15		試験フィードバック 下肢後面・前面、背部へのマッサージのまとめ	

その他の事項

●参考書籍・DVDなど

『エビデンスに基づく 疾患別クリニカルマッサージ』 大谷素明監訳 丸善出版株式会社

『改訂版 クリニカルマッサージ』 大谷素明監 医道の日本社

『分解写真で学ぶオイルマッサージ完全マニュアル』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (kindle版)

『マッサージスコアで学ぶオイルマッサージ』 長谷川尚哉著 出版：(株)ソクラーテクノス (DVD)

●平常点について

課題、実技チェックなどを行い、20%分の評価とします。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	前 期
単 位 数	1	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	松尾 卓、上田 恵介、佐藤 陽子				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	指圧療法は、東洋医療の根源ともいべき経絡経穴を重視して、全身を系統的に押圧し、生体の変調を矯正するのみならず、自律神経の支配を受けている内臓機能の変調も矯正し、自然治癒力を喚起して疾病治療に貢献できる施術である。指圧の基本手技や理論のみに留まらず、遭遇しやすい疾病に指圧を応用し、疼痛や麻痺の運動神経支配の治療だけでなく、自律神経支配の疾病も、内臓体制反射を利用して治療に役立たせ、臨床の場で実践できるように学習する。				
教科書	教科書は指定しない				
具体的な到達目標					
目標1	各疾病に対してなぜこの経絡経穴を使用するのか説明できる。				
目標2	治療部位の筋肉や神経の作用を説明できる。				
目標3	施術する疾患に対しての適応と禁忌の判断ができる。				
目標4	病名にとらわれず、東洋医学の証を立てて治療ができる。				
目標6	各疾患の治療部位にどのような手技を使用する必要があるのか説明できる。				
目標7	模擬の患者に対して治療法の説明ができる。				
評価と試験					
	前 期			後 期	
試験成績	70%				
平常点	算出方法			算出方法	
出席点	30%	算出方法	1回欠席ごとに2点。遅刻、早退は3回で2点の減点	算出方法	
その他	算出方法			算出方法	
試験日	後日伝達				
* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。					
担当教員の実務経験					
実務経験	有	<input checked="" type="checkbox"/>	無	<input type="checkbox"/>	
教員の实務経験	〔松尾〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で11年間の実務経験あり。 〔上田〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、鍼灸アマ指治療院にて2年間、往診専門で開業6年、本校附属治療所で9年間の実務経験あり。 〔佐藤〕あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で13年間の実務経験あり。				
実務経験をいかした教育内容	実際の臨床における患者対応や頻度の高い疾患・症状へのアプローチの方法などを盛り込みながら指導を行う。				

授業の内容

回数	日程	内容	備考
1		伏臥位操作の復習	松尾
2		側臥位操作の復習	松尾
3		神経疾患に対する指圧①	松尾
4		神経疾患に対する指圧②（杖、車いすの操作）	松尾
5		呼吸器疾患に対する指圧	松尾
6		腰下肢痛に対する指圧	上田
7		肩関節痛に対する指圧	上田
8		耳鳴りに対する指圧	上田
9		訪問現場などでの指圧（床）	上田 ※2実
10		食欲不振に対する指圧	上田
11		便秘・下痢に対する指圧	佐藤
12		冷え・のぼせに対する指圧	佐藤
13		坐位操作の復習	佐藤
14		総復習	佐藤
15		前期末試験	松尾・上田・佐藤

その他の事項

内容・日程や担当者は前後する可能性がありますので、予めご了承ください。

授業概要					
学 科	選 科	学 年	3 年	学 期	通 年
単 位 数	3	必要時間数	135	実施時間数	136
担当教員	川口/松尾/臼井/上田/佐藤				
授業形態	実 習	教 室	臨床実習室		
授業目的	臨床に出て適切に対処できる最低限の知識、技術を身につける。 施術者としての自覚を持ち、安全性を十分に考慮した上で施術ができるようになる。 「東洋医学的」、「現代医学的」両面から収集した情報をもとに適切な対処ができる。 授業で学んだ検査や四診を活用し、患者の病態を把握できるようになる。				
教科書	臨床実習の手引き				

具体的な到達目標	
目標1	施術者としての自覚を持ち、臨床実習に相応しい身だしなみ、態度で積極的に参加することができる。
目標2	患者の「受入れ・医療面接・触診（切診）・検査法・病態把握・施術方針の決定・施術・評価」の流れをスムーズに行うことができる。
目標3	安全かつ適切な対処や施術ができる。
目標4	「東洋医学的」「現代医学的」な病態把握に基づく施術ができる。

評価と試験					
	前 期			後 期	
平常点	算出方法	後期に準ずる	41点	算出方法	その他の事項に記載
出席点	算出方法	後期に準ずる	59点	算出方法	その他の事項に記載
その他	算出方法		0点	算出方法	
試験日					

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の実務経験	
実務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>
教員の实務経験	<p>〔川口〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。自宅で開業。</p> <p>〔臼井〕 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の免許を有する。自宅開業4年、他治療院2年の勤務経験あり。脳血管障害等のリハビリ病院にて、3年の研修経験あり。介護予防運動指導員、福祉用具専門相談員等の資格あり。本校附属治療所で4年間の実務経験あり。</p> <p>〔松尾〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師・理学療法士の免許を有する。鍼灸アマ指整骨院にて2年間の臨床経験あり。本校附属治療所で11年間の実務経験あり。</p> <p>〔上田〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。あはき施術管理者。教員養成科附属治療院にて2年、鍼灸アマ指治療院にて2年間、往診専門で開業7年、本校附属治療所で9年間の実務経験あり。</p> <p>〔佐藤〕 あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師の免許を有する。クリニック内リハビリテーション科において7年間の臨床経験あり。本校附属治療所で13年間の実務経験あり。</p>

**実務経験
をいかした
教育内容**

(あん摩マッサージ指圧)
あん摩マッサージ指圧における基本手技を必要に応じて病態に適した施術ができるように教育する。

授業の内容

回数	内容	備考
1～ 68	来所患者に対し、教員管理のもと施術を行う。	

その他の事項

<出席点>59点

- ・総授業数の3/4以上の出席をもって59点とする。出席が3/4に満たない場合、加点はしない。

<平常点>41点

【減点方式】 下限40点

- ・日々の臨床実習に臨む姿勢(身だしなみ、道具の忘れ、授業態度など)
- ・「欠席届(欠課・遅刻)」の提出(当日欠課の場合、事前の電話連絡の有無など)
- ・令和6年7月～9月の欠課、令和7年1月以降の欠課、前出以外の期末試験前日及び当日の欠課

【加点方式】 上限41点

- ・ポートフォリオの提出(4月～12月)
- ・月初めに掲げたパーソナルポートフォリオ、テーマポートフォリオを作成し、その成果を纏めたものを月末に提出する。
- ・評価は、優(5点)、良(3点)、可(1点)の3段階とする。
- ・年間を通じて8回実施する。提出が1度もされなかった場合、臨床実習Ⅱの平常点は0点となり、単位未習得になるため注意
- ・8回すべて提出した場合、ポートフォリオの評価とは別に加点1点とする。

【臨床実習でのマッサージ、指圧の扱い】

マッサージは患者の病態に応じて必要な場合、教員の指示のもと実施することが可

指圧は指圧実技Ⅲ内で実施する指圧審査にて合格したものが基本手技のみ可

授業概要

学科	選科	学年	3年	学期	前期
単位数	2	必要時間数	30	実施時間数	30
担当教員	川口 隼子				
授業形態	講義	教室	ホームルーム		
授業目的	あん摩マッサージ指圧師は東洋医学的な診察や治療法を基本としているが、スポーツの現場に携わる場合もあん摩マッサージ指圧の手技を行い、アスリートやスポーツ愛好家の運動機能を高め、練習や競技による疲労の回復を促進し、運動器の障害を予防するためのものでなければならない。それには疾患別に治療法を会得するだけに留まらず、運動の種類により使用される筋肉、関節、神経などの違いを熟知し、理学的検査法を用いてアスリートやスポーツ愛好家の不利益にならないような手技の選択ができるように学習しなければならない。				
教科書	教科書は指定しない。				

具体的な到達目標

目標1	頸椎症と胸郭出口症候群の鑑別について説明できる。(原因、症候、検査法、治療法、)
目標2	肩関節周囲の疾患について説明できる。(原因、症候、検査法、治療法、)
目標3	テニス肘、野球肘について(原因、症候、治療法、禁忌)説明ができる。
目標4	三叉神経痛、顔面神経麻痺について説明できる。(原因、症候、治療法、禁忌)
目標5	シンスプリント、コンパートメント症候群、捻挫について説明できる。
目標6	上肢、下肢の末梢神経麻痺について説明できる。(検査法、神経、筋肉、特徴)
目標7	自律神経が原因の疾患について説明できる。(更年期障害、食欲不振など)
目標8	片麻痺について説明できる。(原因、症候、運動法)
目標9	腰部の疾患について説明できる。(種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)
目標10	膝疾患について説明できる。(種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌)

評価と試験

		前期	後期
試験成績	90%		
平常点	算出方法		算出方法
出席点	10%	算出方法	算出方法
		全出席を10%1回欠席ごとに2%減、遅刻早退は3回で2%減とする。	
その他	算出方法		算出方法
試験日	後日伝達		

* 追再試験、最終再試験にて合格の場合は、平常点や出席点、その他の評価は反映されず、試験成績のみが評価対象となります。

担当教員の實務経験

實務経験	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>
教員の實務経験	鍼灸あん摩マッサージ指圧師の免許を有し、治療院を開業する。	

実務経験をいかした教育内容

理論を基本として臨床実習に応用できる。

スポーツ医学の臨床のみに留まらず総合的に多くの体性神経、自律神経系の疾患に応用できる。

授業の内容			
回数	日程	内容	備考
1	[動画]4/8	頸椎症、胸郭出口症候群について（障害の特徴、症候、検査法、治療法、禁忌）	
2	[動画]4/15	肩関節周囲炎について（原因、症候、検査法、治療法、禁忌）	
3	[対面]4/27	三叉神経痛、顔面神経麻痺について（原因、症候、治療法、禁忌）	
4	[動画]5/6	テニス肘、屋協肘、シンスプリント、コンパートメント症候群について（原因、症候、治療法、禁忌）	
5	[動画]5/13	運動性痙攣について（種類、症候、治療法）	
6	[動画]5/20	マッサージと併用できる運動法（運動法の種類）	
7	[対面]6/1	婦人科疾患について、（原因、症候、治療法、）瘀血、月経異常	
8	[動画]6/3	片麻痺について（原因、症状、運動法、良肢位）	
9	[動画]6/10	末梢性神経麻痺について（上肢、下肢の神経麻痺、種類、原因、検査法、治療法、禁忌）	
10	[動画]6/17	腰部の疾患について（種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌）	
11	[対面]6/29	膝関節の疾患について（種類、原因、症候、検査法、治療法、禁忌）	
12	[動画]7/1	めまいについて（種類、原因、治療法、）高血圧、低血圧について	
13	[動画]7/8	頭痛について（種類、特徴、原因、治療法、禁忌）	
14	[対面]7/24	更年期症状と障害について（原因、特徴、治療法）	
15	[対面]7/31	肩こり症について（筋肉、神経、）	

その他の事項

教科書がプリントなので紛失しないこと。体調管理は自己責任なので仕事優先で休まないこと。Zoomの授業で、相手が何をしているかこちらから見えませんが、板書や説明もメモって試験に備えてください。